

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	最終結果	分析（成果と課題）及び次年度への課題
1 授業実践力の向上	<p>知的障害のある児童・生徒の国語・算数・数学等の指導に係る教員の専門性の向上を図る。</p> <p>「教員の資質向上事業」を軸に授業づくりを学び、国語・算数・数学等の教科の授業改善を推進する。</p>	<p>【努力指標】（教員） 各学部ごとに、国語、算数・数学等の教科で研究授業を1人1回行う。</p>	<p>研究授業を行った教諭の人数の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 【達成目標B以上】</p>	<p>2月末までに対象教員全員が在研究授業を行ったため、100%になった。 【A:90%以上】</p>	<p>1学期に行った教諭の割合は少なかったが、2学期でほとんどの教諭が研究授業を行うことができた。成果としては教科の目標、内容、評価規準を考えるうえで、指導要領及びその解説を読み込むことができた。</p> <p>課題としては、授業計画・授業改善を行う方法が確立していないことがあげられる。指導内容表、学習マップ、授業計画・改善チェック表などツールを準備し、それを利用して授業改善を行う仕組みを作り上げたい。</p>
学校関係者評価委員会の評価		<p>学びの中で子どもが自分から気づいていくことが子どもの力を高めることにつながっていくので、そのような場面を設定していくことが大切である。子どもたちの健やかな成長のために子どもの能力を引き出せる特別支援教育に関する専門性を身につけて欲しい。</p>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<p>子どもたちが力をつけていけるような授業を目指して授業改善を行っていくことが大切である。より授業力を高めるためにシステム作りが望まれる。</p>			
2 組織的・体系的なキャリア教育	<p>児童生徒が家庭や学校生活、社会生活において必要な習慣を身につけることができるように、キャリア教育の視点を持って指導にあたる。</p>	<p>【努力指標】（教員） キャリア教育の全体計画を配布し、各学部でキャリア教育重点目標（11項目）を確認する。その目標に基づいて指導を行う。</p>	<p>キャリア教育の重点目標（11項目）のうち、いくつ指導できたかを教員にアンケートをとる。その平均が A：8項目以上 B：6項目以上 C：4項目以上 D：4項目未満 【達成目標B以上】</p>	<p>キャリア教育の重点目標（11項目）を小学部教員8名、中学部教員3名、高等部教員8名でアンケートを取り平均が6.2項目であった。 【B：6項目以上】</p>	<p>前期での集計時に、キャリア教育全体計画を再度配布し周知をしたことで、よりキャリア教育を意識して指導に取り組むことができたと思われる。</p> <p>今回は教員のキャリア教育の視点を持って指導をするということであったが、指導したということだけで終わらずに、児童生徒が本当に学校生活や社会生活に必要な習慣が身に付いたかどうかを確認する視点ももつことが必要である。</p>
学校関係者評価委員会の評価		<p>子どもが家でお手伝いを頼んだらしてくれるようになった。これは、学校生活の中でいろいろなことを経験している毎日の積み重ねだと思う。他者との関わりの中で、いろいろな場面で自分の役割を理解して取り組むことがキャリア教育につながっていく。今後も取り組みを続けていって欲しい。</p>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		<p>今後は、指導したことがどれだけ身に付き、生活に生かしているかを検証し、次の段階を指導していくことが望まれる。</p>			

3	安心・安全な学校作り	<p>保護者が学校の防災への取り組みを理解することにより、学校と協力しながら、防災への意識を高める。学校だより、ホームページなどを活用し、学校で行った取り組みを保護者に周知する。</p>	<p>【満足度指標】（保護者） 学校だより、ホームページ、連絡帳、懇談などから、学校の防災教育の取り組みがわかる。</p>	<p>学校での防災教育の取り組みを知っていると答えた保護者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 【達成目標B以上】</p>	<p>防災教育の取り組みについて、保護者にアンケートを行い、24件中22件（91.6%）に対して理解を得られた。 【A：80%以上】</p>	<p>4・5・6・10・2月は月に1回、7・8・9月は月2回と年間11回程度、ホームページや学校だよりにおいて活動の取り組みを周知することができた。 ホームページ閲覧ではその他学校活動も含め関心が高いことが伺え、今後も防災や災害での緊急時等において活用していきたい。 課題としては、緊急時の保護者への引き渡し方法の見直しや実践訓練が考えられる。今後も児童生徒の実態に応じた防災教育活動を展開していきたい。</p>
学校関係者評価委員会の評価		平成19年の能登地震の際、この地域は大きな被害があった。小学校では、無線も校内放送も何も使えなく混乱した。何もなくても子どもたちや教師が動けるような訓練を日頃からしておくことが大切である。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		防災に関しては、どれほど準備しても十分ということはない。万が一を考え、防災に対する意識を高めていくことが必要である。今後も継続して取り組みを行っていく。				
4	業務改善に向けた意識	<p>1か月の会議の予定を見直し、資料作成や事前に会議資料を確認できる設定にし、計画的かつ効率的に業務が行えるようにする。 また、業務が集中するときは、複数で業務にあたり、一人の教員への負担を軽くする。</p>	<p>【努力指標】（教員） 各自が計画を立てて業務にあたることにより、改善することを目指す。9月と1月に自己評価を行う。 A 改善できた B まあまあ改善できた C 改善できなかった</p>	<p>アンケートの結果、計画をたてて、業務にあたることにより「改善できた」「まあまあ改善できた」と答えた教員の割合が A：AとB合わせて80%以上 B：AとB合わせて70%以上 C：AとB合わせて60%以上 D：AとB合わせて60%未満 【達成目標A以上】</p>	<p>A 改善できた 2 B まあまあ改善できた 19 C 改善できなかった 1 「改善できた」+「まあまあ改善できた」22人中21人 95% 【A:80%以上】</p>	<p>大半の教員が計画を立てて業務にあたることで、改善ができたという評価であった。「日々の授業準備」が負担であるという答えが多かった。新学習指導要領になったばかりで、まだまだ試行錯誤している状況である。年間指導計画、指導内容表などを整備することによって教員の負担は減ることが期待される。 課題としては教員減少による業務の負担が考えられるが、担当にこだわらず、分担するなどして平準化を図ることで改善したい。</p>
学校関係者評価委員会の評価		これ以上できないと思っても見直せばまだまだ改善できる部分もあるかもしれない。教員一人一人の意識を変えることが何よりも大事である。教師が元気でないと学校も元気になれないので頑張してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		業務というものが個人に与えられらものでなく、皆で取り組むという意識づけが望まれる。みんなで助け合うという風とおしのよい雰囲気の職員の関係性を作ることが必要である。				